

令和 元年 10 月 3 日 作成 藤本 將輝
令和 元年 10 月 7 日 修正 大塚 崇光, 原田 寛之

第 16 回日本加速器学会年会ビーム物理領域インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会拡大幹事会) 議事録

日時：2019 年 8 月 3 日 (土) 13:10 - 13:50

会場：京都大学 吉田キャンパス 百周年時計台記念館会議室 III

出席者 (順不同・敬称略)：21 名

鷲尾 方一, 栗木 雅夫, 羽島 良一, 大塚 誠也, 加藤 政博, 川瀬 啓悟, 菅 晃一, 黒田 隆之助,
小柴 裕也, 坂上 和之, 佐古 貴行, 全 炳俊, 平 義隆, 内藤 大地, 丹羽 智朗, 原田 寛之,
村上 達希, 山本 尚人, 大塚 崇光, 酒井 泰雄, 藤本 將輝

司会：大塚 崇光

書記：藤本 將輝, 酒井 泰雄

配布資料

2019F-1：前回議事録

2019F-2：ビーム物理研究会 2019 について

2019F-3：国際加速器スクール (ISBA19) について

議事内容

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域
 - 2-2. ビーム物理研究会関連
 - 2-3. 日本加速器学会関連
3. その他
 - 3-1. 国際加速器スクール (ISBA19) について (広大 栗木 雅夫領域副代表)
 - 3-2. 次回の総会・拡大幹事会
 - 3-3. 日本物理学会国際誌 (PTEP) の紹介 (産総研 黒田 隆之助氏)

1. 前回議事録確認（資料 2019F-1）

2019 年 3 月 15 日に開催された日本物理学会第 74 回年次大会におけるビーム物理研究会インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会総会）の議事録（配布資料 2019F-1）について内容確認が行われた。事前にメールにて配布されており、時間的な制約から内容の読み合わせは省略した。意見・コメントは無く議事録として承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム物理領域

[大会関連]

前回の年次大会について

2019 年 3 月 15 日に開催された日本物理学会第 74 回年次大会での講演数と内訳、一般講演数の推移、他領域との比較、所属機関別内訳、他領域との合同セッション発表件数の内訳、招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演、若手奨励賞受賞記念講演に関して報告があった。詳細については既に『日本物理学会第 74 回年次大会インフォーマルミーティング（ビーム物理研究会総会）議事録』で既報である。また、全領域の概要集提出率について報告があった。ビーム物理領域における講演者数の論文提出率は、物性領域の合計と比較して例年 10 パーセントほど低く、今後の提出率向上を課題とする。また、2020 年の年次大会に向けた合同セッションの申込締切は未定だが、例年 9 月となっている。新たな提案があれば相手領域・タイトル案を領域運営委員まで連絡してほしいとの依頼があった。

若手奨励賞について

今年の日本物理学会若手奨励賞（ビーム物理領域）募集締切は 7 月 24 日で、3 件の応募があったことが報告された。例年応募件数が少なく、来年以降の積極的な応募が望まれる。また、鷲尾 方一領域代表（早大）より審査の円滑化を図るため、これまで郵送のみであった受付方法について、来年より電子ファイルによる提出にも対応するよう、募集実施細則の変更が提案され了承された。

日本物理学会 学生優秀発表賞の結果について

ビーム物理領域では、前回年次大会（2019 年春）から学生優秀発表賞の審査および授与を開始している。前回は講演申込の一週間前までの事前エントリーも行ったが、来年年次大会（2020 年春）より講演申込時の Web エントリーのみに変更となった。また、予稿の提出を必須とした。前回は 24 名のエントリーがあり、15 名の審査員で審査を行った。受賞者は以下の通り（順不同）。

青木 将晃氏（広大先端研）

須江 祐貴氏（名大理）

波場 泰昭氏（名大理）

森田 泰之氏（阪大 RCNP）

安田 浩昌氏（東大理）

前回の Web エントリー締切は 2018 年 11 月 20 日，来春の応募予定も 11 月下旬を予定しているため，応募に向けた準備を進めてほしいとの依頼があった。

2019 年秋季大会でのシンポジウム・企画講演について

主催は行わないが，他領域との共催でシンポジウム講演 1 件，企画講演 3 件の開催が予定されている。

シンポジウム講演：9 月 15 日（木）9:15 - 12:15 K12 会場（岐阜大学）

領域 2，実験核物理領域，ビーム物理領域共催

共催コンソーシアム：JST A-STEP

「小型中性子源が拓く新領域」

企画講演：9 月 17 日（土）15:05 - T22 会場（山形大学 小白川キャンパス）

素粒子実験領域，ビーム物理領域共催

「本実験を開始した Super KEKB/Belle II: 加速器運転の状況と展望」

素粒子実験領域，ビーム物理領域，素粒子論領域

「本実験を開始した Super KEKB/Belle II: 測定器の性能と物理解析の状況」

9 月 18 日（日）10:55 - T22 会場（山形大学 小白川キャンパス）

素粒子実験領域，ビーム物理領域，素粒子論領域

「次世代レプトンコライダーの比較と ILC 計画の展望」

秋季大会での他領域との合同セッションについて

今秋季大会では合同セッション開催の予定はない。

2020 年次大会までのスケジュール

2020 年次大会までのスケジュールが確認された。「素核宇」は 2019 年 9 月 17 日から 20 日まで山形大学・小白川キャンパスで，「物性」が 2019 年 9 月 10 日から 13 日まで岐阜大学で秋季大会が開催される。第 75 年次大会は 2020 年 3 月 16 日から 19 日まで名古屋大学・東山キャンパスで開催される。シンポジウム，招待・企画講演などの申込締切（Web 受付）は 11 月初旬，一般講演の申込期間は 10 月下旬から 11 月下旬と予想される。申込に向けた準備を進めてほしいとの依頼があった。

[領域運営関連]

執行部と事務局の確認

ビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた。ま

た, 2019 年 4 月より現執行部の体制は以下の通り. 任期は 2019 年 4 月から 2021 年 3 月まで.

<ビーム物理研究会>

会長: 鷲尾 方一 (早大)

副会長: 栗木 雅夫 (広大), 羽島 良一 (QST)

<日本物理学会ビーム物理領域>

代表: 鷲尾 方一 (早大)

副代表: 栗木 雅夫 (広大)

<事務局>

早稲田大学理工学部

東京都新宿区大久保 3-4-1 55 号館 S 棟 3 階

次期領域運営委員について

現領域運営委員の藤本 将輝氏 (分子研) の後任として, 産総研の平 義隆氏が推薦され, 承認された. 任期は 2020 年 4 月から 2020 年 3 月までの 1 年間となる.

領域委員会報告

2019 年 5 月 21 日に開催された領域委員会についてビーム物理領域代表の鷲尾 方一 領域代表 (早大) より報告があり, 優れた研究活動を行う 45 歳以下の女性会員を顕彰することを目的とした米沢富美子記念賞が新設され, 近く募集が開始するとのアナウンスがあった.

2-2. ビーム物理研究会関連

[研究会関連]

ビーム物理研究会・若手の会 2019 について (阪大産研 菅 晃一氏)

菅 晃一氏 (阪大産研) よりビーム物理研究会・若手の会 2019 に関して資料 (2019F-2) を用いて概要の報告があった. 大阪大学産業科学研究所及び RCNP (予定) の主催により 2019 年 11 月 25 日から 27 日 (研究会: 25-26 日、若手の会: 26-27 日) の会期で開催予定である. 会場は大阪大学吹田キャンパスにある産業科学研究所インキュベーション棟 I-117 (座席数 99 席) とし, 若手の会も同じ会場で開催する. 招待講演及び懇親会は検討中である. Web ページは 8 月中に公開予定であり, 学生の交通費及び宿泊費の全額補助については未定であるが, 若手発表賞は例年通り設ける予定であることが報告された.

ビーム物理研究会・若手の会の日程案として, 研究会本会を 25 日午後に開始し, 若手の会を 26 日懇親会より開始とする案が提示された, また, 若手の会の口頭セッションは 27 日午前中に行うことを検討している.

また、会期中の宿泊は各自で手配してほしいとの依頼があった、大阪大学の宿泊施設を利用することも可能であるが、予約方法に関しては再度確認を行うこととなった。

[研究会運営関連]

若手の会の活動報告（原田 寛之氏 JAEA/J-PARC）

まず、ビーム物理研究会・若手の会の活動に関して、原田 寛之氏（JAEA/J-PARC）より別資料を用いた説明があった。若手の会の1年間の活動報告は以下の通りである。

- 2018 年 10 月 若手の会活動開始を加速器学会誌で報告（原田氏、坂上氏）。
- 11 月 若手の会 2018 を開催、若手発表賞を4名に授賞。
- 2019 年 2 月 幹事会を拡大し、オブザーバーを設置。
- 4 月 新体制で幹事会を発足。
日本学術会議の若手科学者ネットワークアニュアルレポートに
若手の会活動内容を提出。
- 7 月 第1回企画研究会を主催。
- 8 月 企画研究会の実施報告を学会誌に投稿予定。

次に、会員の状況について報告があった。現在会員数は94名であり、昨年度末に卒業・修了により8名の脱会、また年齢制限により1名の退会があったが、今年度に14名の新規会員を迎えた。引き続き、若手研究者及び学生への入会を打診するよう依頼があった。

若手の会幹事会について、昨年会員の中から応募のあった2名のオブザーバーを加え、2019年4月より幹事会を拡大し、2020年3月までを第1期として運営を行っている。拡大幹事会はビーム物理領域との連携を深めることを目的とし、領域代表及び副代表に顧問就任を依頼している。また、領域運営委員もオブザーバーとして参加している。

若手研究者及び学生にビーム物理の魅力をアピールし、求められている研究者像を明確化することを目標に、公募採用の案内をWebページに掲載し、メーリングリストにおいても配信を行っていることが報告された。また、学会・研究会案内もメーリングリストで配信しているので、配信したい内容がある方は連絡してほしいとの依頼があった。

今年第1回が開催された企画研究会について、今後継続した開催を行うため意義を明確にして運用方法を決定することが報告された。企画研究会は今後、次世代の科学技術を担う若手自身が企画・提案し、ある議題に対して若手を中心に発表・議論を行う企画研究会を不定期に開催する。若手の会会員であれば誰でも企画提案者になることができ、提案された企画について幹事会承認後、幹事会のサポートを受けて開催する。若手研究者及び学生の積極的な活用を望む。

日本学術会議 若手科学者ネットワークについて（原田 寛之氏 JAEA/J-PARC）

ビーム物理研究会・若手の会組織の機となった、日本学術会議若手アカデミー若手科

学者ネットワーク分科会の活動について説明及び報告があった。若手の定義は 45 歳未満としている。若手科学者ネットワーク分科会の活動として、メーリングリストを通じた情報交換、若手科学者サミットの開催及びアニュアルレポートの作成が挙げられる。サミットはこれまで 3 度開催されており、第 2 回及び第 3 回に原田氏、坂上氏が参加した。また、アニュアルレポートに若手の会活動報告を提出し、若手アカデミーからの質疑応答を行っている。ただし、今年は分科会の活動が停滞気味であり、注視していく必要がある。

若手の会 2018 での若手発表賞について（原田 寛之氏 JAEA/J-PARC）

若手発表賞についての説明があった。若手発表賞は、若手研究者や学生の研究意欲を高め、社会人としての自立・発展を支援することを目的として 2015 年より授与を行っている。対象者は学生もしくは任期付研究者とし、現在年齢制限は設けていないが 45 歳未満を対象とすることを検討中。口頭発表のうち、研究成果、主体性及び発表のまとまりを評価基準とし、数名の審査員による採点によって受賞者を決定する。授賞はビーム物理研究会会長の名の元で行われ、受賞者には賞状と副賞を授与する。

第 1 回企画研究会について（坂上 和之氏 東大）

第 16 回日本加速器学会年会の前日となる 2019 年 7 月 30 日にビーム物理研究会・若手の会を主催として、京都大学国際科学イノベーション棟において第 1 回研究会が開催され、提案者である坂上 和之氏（東大）より概要報告があった。詳細については加速器学会誌で報告予定である。

これまで 30 年の加速器技術の発展をレビューし、これから 30 年の加速器の未来について参加者で議論を行い、懇親会で親睦を深めた。参加者数は総数 37 名、うち若手は 31 名であった。初回であったが好評があり、レーザー分野も交えた分野間融合も視野に入れてみてはとの今後につながるコメントもあったことが報告された。今後も継続して開催するためには、学会・研究会に抱き合わせの形での開催が望ましい。第 1 回は加速器学会前日の開催となったが、レーザー分野からの参加者をどのように確保すべきかが今後の検討課題である。

2-3. 日本加速器学会関連

第 17 回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2020 年 8 月 4 日（火） - 8 月 6 日（木），見学は 8 月 7 日（金）に愛媛大学、住友重機械工業などを予定。

共催：未定

会場：愛媛県民文化会館（旧ひめぎんホール）

備考：会期中にインフォーマルミーティング・ビーム物理研究会拡大幹事会を開催。

3. その他

3-1. 国際加速器スクール (ISBA19) について (広大 栗木 雅夫領域副代表)

栗木 雅夫領域副代表より, 2019 年 10 月に広島で開催される国際加速器スクール (ISBA19) についての概要説明が, 配布資料 (2019F-3) を用いて行われた. 本スクールでは, カリキュラムとして簡単な加速器を想定した設計シミュレーションを行う. 現在 49 名の登録があり, 国内から 19 名, 海外から 30 名が参加予定である. 今年度の参加申込はすでに締切られているが, 来年度以降も継続予定であり, ビーム物理領域も協力して学生の増員, また企画検討を行うことが望ましい.

3-2. 次回の総会・拡大幹事会

次回の総会は 2020 年 3 月 16 日 (月) - 19 日 (木) に開催される日本物理学会第 75 回年次大会 (名古屋大学・東山キャンパス) の会期中に行う. また, 拡大幹事会は 2020 年 8 月 4 日 (火) - 6 日 (木) に開催される第 17 回日本加速器学会年会 (愛媛県松山市) の会期中に行うことが確認された.

3-3. 日本物理学会国際誌 (PTEP) の紹介 (黒田 隆之助氏 産総研)

日本物理学会が発行する査読付き国際誌 PTEP について黒田 隆之助氏 (産総研) より紹介があった. ビーム物理分野では現在レーザープラズマや KEKB の運用といったテーマを挙げて特集号を組んでおり, 積極的なテーマの提案と論文の投稿の投稿について依頼があった.